



# 谷藤EYE通信

医療法人泰明会 谷藤眼科医院 盛岡市前九年二丁目2-38

URL <http://www.5d.biglobe.ne.jp/~tanieye/>

平成16年  
1月・2月・3月号

No.10

Tel : 019-646-2227

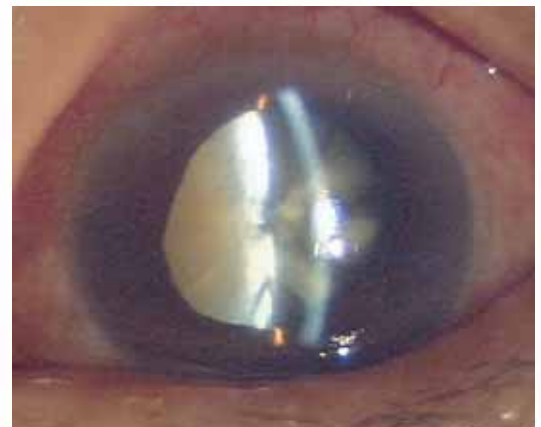
Fax : 019-645-3811

## 急性緑内障発作について

院長 谷藤 泰寛

新年を迎え、皆様と共により良い年であるよう願っております。何件かの新年会もすでに終了しましたが、谷川のせせらぎが聞こえ、湯花の出る温泉につかり、普段ゆっくりお話が出来ない方々と愉快的話題に興ずることは、本当に気分の休まるもので、近郊に幾多の温泉がある盛岡の特権ではないでしょうか。

ところで、毎年気温が下がってくると、急性緑内障で駆け込まれる患者さんが決まって見えます。多くはご高齢の女性で、大抵は数度の緑内障発作を経た上で痛みを我慢できなくて来院されます。白内障が進みすぎて成熟、白濁、そして膨張し、眼内の排水溝である前房隅角が塞がれて眼圧が急上昇するわけですが、その値が40はおろか60mmHgにもなって、頭痛、はきけ、嘔吐などを訴え、食事も困難となって、今日



見えられたご婦人のように、内科や脳外科の病気と思われて、点滴などの処置を数日受けてから来院される患者さんが盛岡でも見られます。結局はかなり視力の落ちた白内障を放置した結果ですが、多くは反対側の目がまだ視力が良いと感じているため「まあいいか」と思っている間の事件！なのです。

早期に見つければ外来治療が可能なレーザー虹彩切開手術で済むわけですし、視神経の障害も少なく予後も悪くは無いのが普通ですが、急性発作中にこの手術を行うことは困難であることが多く、白内障が進行したものは白内障を除くのがこの病気の根本治療となります。残念ながら今日見えられた方は、左目は殆んど光が分かるかどうかという状態で、しかも大事な角膜内皮が白内障手術に耐えられない程減少していて、手術により発作は収まったとしても、本格的に見えるようにならない状態となっていました。

白内障のある方で、しかも遠視の強い方はご用心ということですが、白内障がある程度になったら放置せずに適当な時期に手術を受けることが肝心かなめということになります。

### お知らせ (変更・追加がある場合もございます。ご了承ください)

\* 1月10日(土) 第5回理事会：院長出席予定

\* 1月24日(土) 第302回岩手眼科集談会

\* 1月30日(金)～2月1日(日) 第27回日本眼科手術学会総会(東京)：院長・副院長出席予定

※内科診察予定：毎月第2・第4木曜日です

(都合により変更になる場合もありますので、診察を受ける患者様は、ご確認の上来院をお願いいたします)

### 報告

\* 11月15日(土) 看護師勉強会

\* 11月20日(木) 准看護師 榊真知子退職

\* 12月20日(土) 看護師勉強会

## 眼瞼下垂って病気なの？

副院長 姜 和哲

今年の冬も厳しい寒さが続いています。私も盛岡へ就任して2回目の冬を迎えました。ここ北東北も今やウィンタースポーツには最適の季節になりましたが、いざ生活をするとすると、毎日の寒さはやはり堪えます。このようななか毎日多くの患者様が当院に足を運んでくださることは、私にとってうれしい限りです。これからも寒さに負けず、患者様と親身に話せる外来を目指したいと思っております。

さて、最近外来にいらっしゃる患者様の中に、「**眼瞼下垂**」つまり **瞼（まぶた）が下がる** ことでご相談される患者様が増えています。眼瞼下垂とは、先天的にまたは後天的に眼瞼の開瞼が不十分となり、視野が狭くなった状態を指します。このようなことから私は眼瞼下垂を立派な病気と認知しています。患者様の中には「年だからしょうがない・・・」とか「気にならないから・・・」といって軽視される方がおります。確かに見えなくなる病気ではありませんが、日常生活に不自由してしまうことは生じてきます。外来にいらっしゃる大半の方は、加齢とともに、眼瞼が垂れ下がってしまう加齢性の眼瞼下垂ですが、中には、**コンタクトレンズ装着歴が数十年と長い方** や、**外傷によって生じるもの、内科的な病気（重症筋無力症など）から生じる** 眼瞼下垂もあります。原因によって治療法も違ってくる場合がありますが、大半は **外科的に眼瞼をあげる手術（眼瞼挙筋短縮術）** で整復が可能です。整容的な面が重視されるため、どうしても患者様のイメージでは美容外科での領域であると思いがちですが、当院では、病気という概念のもとその機能回復を目的として、この眼瞼の手術を施行しております。基本は外来手術（約25分）で行いますが、遠方の方は短期入院でも対応いたします。詳細に関しましては、われわれスタッフにご相談ください。私は少しでも患者様皆さんのこれからの視機能向上（QOV）を目指して努力していく所存です。

## 目の不思議！？

マリオットの盲点

“うっかりして気付かない点” という意味で「盲点」という言葉を使いますが、実際に私達の眼の中には、注視点(物を見ようとする点)の耳側約15°の所に視野が欠けて見えない「盲点」が存在し、マリオットの盲点と呼ばれています。これは網膜の視神経乳頭という視神経の束や血管が入ってくる場所で、光を感じる視細胞が無く、ここに集まった光は脳に伝達されず見えない点となっています。

それでは実際に体験してみましょう。

まず左眼を閉じ★をまっすぐ見つめ、顔と図の距離をゆっくり近付けたり離したりしてみてください。約20～30cm位の所で◎が消えます。これがマリオットの盲点です。今度は右眼を閉じて◎を見つめ同様に行ってみてください。

マリオットの盲点？



※両眼で見ている時は、もう片方の眼の視野がこの盲点を補っているため気付かないのです。

2003年、感動した事はいっぱいありましたが、個人的には、本州最東端の銚ヶ崎と、最北端の近くにある東通村に行った事です。

銚ヶ崎へは、途中車を置き、台風の影響で土砂崩れや木が倒れている山路を2時間半歩き続け、やっと灯台が見えたと思ったら海のパノラマ。240°海！右を見ても左を見ても一望海。風も強く寒かったのですが、大満足。胸いっぱい深呼吸して、帰路はまわりの草花や野鳥を見てゆっくり帰ろうなんて思っている間に、一気に日も暮れ野獣の心配で足早に帰って来たのはとても残念でした。

東通村では、寒立馬の放牧地で沢山の馬を目の前で見えてきました。しかも初めて触ってとても興奮しました。感触は、暖かく柔らかい毛でした。寒立馬は、字の如く下北半島の厳冬の強風でも力強く立ち尽くす馬と言うことで、足や体は牧場の馬よりも遅しくロバのようにどっしりとしていました。馬達は親子で仲良く草を食べていたり、話をしているかのように顔を会わせたりと、ほのほのとしてとても和やかな空間でした。自然の中で生きるものの躍動感を感じました。

自然の中にはまだまだ知らない世界が隠れているようです。新たな発見でマンネリ生活の脱出と自然のような心をもてたらなあ、今年もまた未知の世界を探索しに足が向くことでしょう。



私の出身地は青森県の東通村という所です。下北半島に面していて自然に囲まれたのどかな村です。冬になると吹雪にも強い馬という意味で名付けられた“寒立馬（かんだちめ）”を見ることができます。たまに帰省すると懐かしさというか安心した気持ちになります。昨年新幹線はやてが開業したことにより、以前に比べ少しは盛岡との距離が近くなったような気がします。初めて盛岡に来た時は、不安や寂しさがありましたが、今は盛岡での生活も慣れ充実した毎日を送っています。

## 友人からの手紙

看護師 青柳 幸子

先日友人から手紙が届きました。その友人とは普段から携帯でメールのやり取りをしている仲だったので、あらためて手紙だなんて何かあったのかな？と思い読んでみると、普段と変わらない育児や仕事の事などでした。終わりに「携帯でメールもいいけどたまには手紙もいいでしょ」との言葉。久しぶりに見る友人の特徴のある筆跡を見て「そうこんな字」と懐かしく妙に嬉しかったです。それを見てふと最近手紙というものを書いていないなあと気付きました。日頃携帯で気軽にメールもでき、その気軽さが良く私もつい手にしますが、手紙とは違って後々まで形として残る物ではない事を考えたら少し寂しいかなと思いました。字にはその人の気持ちのあり様が表れると言いますが、久しぶりに手紙の温かさに触れた事で、私も時には手紙を書く時間を持ちたいと思いました。

## 《 診・療・案・内 》

	月	火	水	木	金	土
午前9時 ~12時	診察	診察	診察	診察	診察	診察 午後1時 まで
午後2時 ~5時半	診察	手術	手術	診察	診察	

受付時間：午前11時半まで・午後5時まで

休 診：第2・第4土曜日、日曜日、祝日、  
火曜日・水曜日の午後は、手術のため診察はありません。  
木曜日の午後は、院長の診察は3時以降になります。（副院長の診察は2時から）